足立健康友の会
かばら支部ニュース

第８５号
２０１５年８月２０日
電話３６０５－５５９４
http://kabara-tomonokai.kenwa.or.jp/
mail:kabarashibu@yahoo.co.jp

原水禁世界大会
次の世代に原爆の恐ろしさを伝えたい

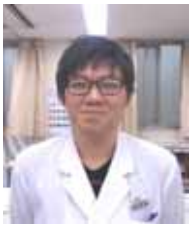
被爆７０年の節目の今年、原水爆禁止世界大会は広島・長崎の通しで開かれました。平和宣言から引用します。

原子爆弾の凄まじい破壊力を身をもって知った被爆者は、核兵器は存在してはならない、そして二度と戦争をしてはならないと深く、強く、心に刻みました。（中略）私たち一人ひとりの力こそが、戦争と核兵器のない世界を実現する最大の力です。市民社会の力は、政府を動かし、世界を動かす力なのです。

以下は蒲原グループを代表して薬剤師の田中さんが参加した報告です。

初めまして、今回長崎原水爆禁止世界大会に、蒲原グループを代表して参加して来ました。東あやせ薬局の薬剤師をしています、田中慎一郎です。今年の原水爆禁止世界大会は戦後70周年ということで、多くの参加者が全国から集まりました。東京から長崎原水禁のオープニング会場まで８時間少しかかりました。会場ではすでに全国各地から５０００人を超える参加者が待っていました。世界大会と言っても・・・と思っていたのでまず外国人の多さに驚きました。そして、ノーベル平和賞に推薦された、谷口すみてるさんの直接のおはなしが始まりました。16歳の時長崎で原子爆弾の被爆にあい、奇跡的に生き延びることができたがそれは人間らしく生きることも、人間らしく死ぬこともできない、と仰っていました。

私がこの３日間で一番印象的だった出来事は、２日目に長崎の市民体育館での青年の集いでのことでした。私より若い大学生や専門学生、高校生がとても熱心に被爆者の方のお話しを聞いて、「これから生まれてくる世代に自分達が伝えなくては」と、仰っていました。被爆者の方に直接お話しを聞けるのは自分たちが最後かもしれないので、私も次の世代に繋げて行かなくてはいけないと思いました。今回は皆様のおかげで私が長崎で大切な経験をすることができました、本当にありがとうございました。



報告　薬剤師　田中慎一郎

ＮＰＴ核不拡散検討会議
パート２　ワシントン行動

四月二九日、ニューヨークでの活動を終え列車でワシントンへ向かいました。

ワシントン駅は歴史ある素敵な建物でした。ＤＣの街に入ると日の丸・星条旗が街路灯に掲げてあり、安倍首相の訪米歓迎のためでした。警備が厳しく、ホワイトハウス前広場での署名活動は出来ず公園でアメリカ人被爆者との交流集会を始めようとすると、「動いていなければダメ」と警備員に追い払われ、公園はずれの道路で、署名活動をしました。政府機関で働いている人が多いのかパリッとしたスーツ姿が多く、署名をしてくれた人は黒人が多かったように思います。

30日は市内観光、ホワイトハウスは工事中・リンカーン廟・スミソニアン博物館、ここでＢ２９を見ました。何しろ大きいのです。この飛行機が編隊を組んで東京の下町を焼き尽くしていったのか、その翼の下には、鹿児島知覧から飛び立った特攻隊を乗せた小さな小さな飛行機が在って涙してしまいました。また長崎に原爆を落としたエノラゲイと呼ばれた飛行機の前には、「長崎に原爆を投下し、戦争を終わらせた英雄」としてパイロットの像がありました。悔しさいっぱいでした。夕方からは、オールソウルズ・ユニテリアン教会で開催された交流集会に参加、ドキュメンタリー「ヒロシマの校庭から届いた絵」を鑑賞、この冒頭に「アメリカは戦争終結のため、やむなく広島・長崎に原爆を投下しました」とナレーションがはいります。アメリカの歴史教科書はすべてこのような記述になっているとの事。そうでない事実を学んでほしい、と思うと同時にそのような歴史観を持っていながら核兵器の非人道・性に怒り核廃絶の運動を進めておられる方々に敬意の念を抱きました。

ビジネス一色のニューヨークの街、東西南北何処からでも入れるセントラルパークを癒し場として作り上げた街、ワシントンは首都としての威厳と歴史を大切にしている街、なにより空が美しい街でした。

報告　渡名喜史子

「みんなでとめよう戦争法案！集会＆パレード」足立東部地域

「二度と戦争はしない」と世界に誓って70年。平和憲法をもつ日本が、戦争か平和かの岐路に立たされています。時の政府の判断によって、世界中どこででも、いつでも戦争が出来る国にするこの法案を「戦争法案」と呼ばず何というべきでしょうか。

「この法案は何が何でも通すわけにはいかない」「憲法9条を守れ！」という声は、高校生、大学生、ママたち、学者、文化人、働く人々、被爆者等々あらゆる階層、年齢層からわき起こっています。安倍暴走内閣が言う「国民の理解がすすんでない」のではなく、理解がすすんでいるからこそ反対の声が日に日に大きくなっているのです。

そんな中の7月19日、「みんなでとめよう戦争法案！集会＆パレード」がこの地元でも行われました。菖蒲沼公園に集まった地元の区民150人は、車椅子、幼児を自転車に乗せた人を含め、猛暑の中、約2㎞を50分かけて行進しアッピールしました。沿道やマンションの窓から手を振る人々、拍手で迎えてくれる人々。この地でも、安倍政治への怒り、戦争への不安が広がっていることを実感しました。どの世論調査でもこの法案への反対の声は賛成を大きく越え、内閣支持率も急落し、民意は誰がみても廃案を求めています。「憲法をこの法案に沿わせる」「法的安定性は関係ない」「戦争に行きたくないというのは利己主義だ」などの妄言は安倍政権の本音だと思います。国民世論は明らかに彼らを追い詰めています。しかし彼らは、国会の数の力で強行する姿勢を崩していません。国の未来を決めるのは国民であることをさらに大きな世論で示し、廃案にするまで声をあげ続けましょう。8月23日（日）には前回の2倍、3倍の区民の参加で成功させましょう。今回は綾瀬駅前までパレードをします。平和への思いを行動に、「戦争法案廃案！」まで闘い抜きましょう。

みんなでとめよう戦争法案！

足立東部実行委員会　高橋　重雄

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

「戦争体験を聞く会」開催

すいとんを食べながら　綾瀬・加平地域

8月9日、加平住区センターにて12時から健康友の会、生活と健康を守る会、新婦人、共産党後援会が共同して、すいとんを食べながら、「戦争体験を聞く会」を開催し、43人が参加しました。綾瀬地域で毎年行っている「平和の集いINアヤセ」の第18回目の企画です。

主催者あいさつ、すいとんを食べた後、石川ちよこさん（足立生活と健康を守る会会長）が自らの戦争体験を語りました。東京大空襲（3月10日）のひと月後、4月13日に足立区でも空襲がありました。その空襲を西新井で12歳の時体験したお話でした。

1945年4月13日の夜中、警戒警報後、近くに爆弾が落ちたこと、外に出ると西新井警察署（現在の都税事務所）が燃えていて、すぐまわりにも火が回ってきたので、逃げる準備をしていると、「今燃えている場所に避難しろ」と言われ、燃えている西新井警察署めざして夢中で逃げたこと、朝になり明るくなってくると周辺でも手がない死体などがゴロゴロしていたことなどを話されました。

戦争は12月8日が始まりではなく、以前の満州事変から始まっている。そこには教育の力が大きく、戦争に反対できない雰囲気が作られたことを話され、「戦争法案」は絶対に許さないと語気を強めて、話が終わりました。

その後の懇談では、同日、西新井警察署近くで空襲にあったTさんのお話、沖縄北部でのアメリカ軍と対峙されたNさんの少年時代の体験、反戦的言動があったとしてビンタを受け難聴になったHさんの話など、戦争と戦時社会の話を各々情景が目に浮かぶように話されました。

「せんそう」の体験を語り継ぐことは未来の世代に「平和の心」を手渡すことです。「平和の集い」が戦中戦後を生き抜いた先輩方の体験とその思いに触れた戦後世代が受け継ぐ決意の場」ともなりました。

最後に、おいしいすいとんとおにぎりを作ってくれた人たちへお礼を申し上げます。

報告　役員　石井　史衛